

「教育原理」初見の答申問題練習

©2024sakurakosensei 転載・転売・流用禁止

【問題1】

次の文は、「特別支援教育の推進について」（平成19年4月1日 文部科学省初等中等教育局長通知）に示された「特別支援教育の理念」である。（ A ）～（ C ）にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の（ A ）を把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。

また、特別支援教育は、これまでの特殊教育の対象の障害だけでなく、知的な遅れのない（ B ）障害も含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施されるものである。

さらに、特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒への教育にとどまらず、障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる（ C ）の形成の基礎となるものであり、我が国の現在及び将来の社会にとって重要な意味を持っている。

（組み合わせ）

	A	B	C
1	教育的ニーズ	身体	共生社会
2	教育的ニーズ	発達	職場環境
3	教育的ニーズ	発達	共生社会
4	障害の程度	身体	職場環境
5	障害の程度	発達	職場環境

【問題2】

次の文は、中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（平成23年1月）の一部である。（A）・（B）にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

幼児期は、生活の中で自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験を通して、人格形成の基礎となる豊かな心情、物事に自分からかかわろうとする意欲や健全な生活を営むために必要な態度等が培われる時期である。

これを踏まえ、幼児期の教育においては、計画的に環境を構成し、遊びを中心とした生活を通して体験を重ねるように、一人一人に応じた総合的な指導を通して、（A）な活動を促すことが必要である。

例えば、高齢者や働く人等、自分の生活に関係の深い地域の人々との触れ合いや交流等を通じて、人とかかわることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすることが重要である。幼児の主体的な活動は、他の幼児とのかかわりの中で深まり、豊かになるものであることから、一人一人をいかした集団を形成しながら、（B）を育てていくことが大切である。特に、集団の生活の中で、幼児が自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験をし、自信をもって行動できるようにすることが重要である。

（組み合わせ）

A	B
1 自発的・主体的	人とかかわる力
2 自発的・主体的	目標に向かって努力する態度
3 社会的・奉仕的	勤労を重んじる心
4 社会的・奉仕的	人とかかわる力
5 実践的・体験的	目標に向かって努力する態度

【問題3】

次の文は、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」（平成24年7月 文部科学省）の一部である。（ A ）・（ B ）にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

基本的な方向性としては、障害のある子どもと障害のない子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶことを目指すべきである。その場合には、それぞれの子どもが、授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、（ A ）を身に付けていけるかどうか、これが最も本質的な視点であり、そのための（ B ）が必要である。

（組み合わせ）

	A	B
1	生きる力	教材開発
2	生きる力	環境整備
3	学力	環境整備
4	学力	教材開発
5	知識活用力	環境整備

【問題4】

次の文は、『生徒指導提要』（文部科学省、平成22年）の中の「第1章、第1節、1 生徒指導の意義」の一部である。（ A ）・（ B ）にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や（ A ）を高めることを目指して行われる教育活動のことです。すなわち、生徒指導は、すべての児童生徒のそれぞれの人格のよりよき発達を目指すとともに、学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で興味深く、充実したものになることを目指しています。生徒指導は学校の教育目標を達成する上で重要な機能を果たすものであり、（ B ）と並んで学校教育において重要な意義を持つものと言えます。

（組み合わせ）

	A	B
1	学力	部活動指導
2	学力	学習指導
3	行動力	進路指導
4	行動力	部活動指導
5	行動力	学習指導

【問題5】

次の文は、中央教育審議会答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」（平成 27 年 12 月）の一部である。（ A ）・（ B ）にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

学習指導要領の次期改訂が目指す理念を実現するためには、教育課程全体を通じた取組を通じて、教科横断的な視点から教育活動の改善を行っていくことや、学校全体としての取組を通じて、教科等や学年を超えた組織運営の改善を行っていくことが求められているとしており、教育活動や組織運営など、学校全体の在り方の改善において核となる教育課程の編成、実施、評価及び改善という「（ A ）」の確立が必要であることが示されている。

こうした（ A ）は、次のような側面から捉えることができる。

- ・ 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ・ 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の（ B ）を確立すること。
- ・ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

（組み合わせ）

A	B
1 クオリティ・マネジメント	インテリジェンス・サイクル
2 クオリティ・マネジメント	P D C A サイクル
3 リスク・マネジメント	P D C A サイクル
4 カリキュラム・マネジメント	P D C A サイクル
5 カリキュラム・マネジメント	インテリジェンス・サイクル

【問題6】

次の文は、中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（平成 28 年）の一部である。（ A ）・（ B ）にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

通級による指導を受ける児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒については、一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援が組織的・継続的に行われるよう、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を（ A ）作成することが適当である。

（中略）

障害者理解や交流及び共同学習については、グローバル化など社会の急激な変化の中で、多様な人々が共に生きる社会の実現を目指し、一人一人が、多様性を尊重し、協働して生活していくことができるよう、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」と関連付けながら、学校の教育活動全体での一層の推進を図ることが求められる。さらに、学校の（ B ）としての学習活動にとどまらず、地域社会との交流の中で、障害のある子供たちが地域社会の構成員であることをお互いが学ぶという、地域社会の中での交流及び共同学習の推進を図る必要がある。

（組み合わせ）

	A	B
1	必要に応じて	教育課程上
2	必要に応じて	授業
3	全員	教育課程上
4	全員	授業
5	ある特定の事例に対して	教育課程上

問題 1 = 正答 3 問題 2 = 正答 1 問題 3 = 正答 2 問題 4 = 正答 5
問題 5 = 正答 4 問題 10 = 正答 3